

40周年記念事業の一環として、研究発表部門を6分野に括り、記念大会に相応しいシンポジウムを行う。

◎組織構造分野

『これからの組織構造・材質研究』

会場：第1会場 1101教室

司会：藤井智之（森総研木材利用部）、岡野健（東大農）

- (1) 「日本木材学会40年の微細構造研究(Wood ultrastructure research during the first 40 years of JWRS)」 W. A. Cote, Jr.
- (2) 「組織構造研究の課題とあるべき姿」 佐伯浩
- (3) 「顕微化学的組織構造研究の新しい展開」 深沢和三
- (4) 「樹木の系統分類と材の識別」 緒方健
- (5) 「将来の針葉樹材(Coniferous wood quality in the future)」 R. W. Kennedy

木材の組織・構造に解説はいらぬ。なぜなら、それは木材の学問研究のみならず、木材を活用していこうとするあらゆる分野の基礎だからである。今、組織・構造の研究に人生を捧げたといつて過言ではない3人の研究者が定年を迎えた。一足先に定年を迎えた海外の研究者を加えて、それぞれの研究を振り返っていただき、これからの研究のあるべき姿、方向を自由闊達に展望し、議論する。

W. A.

Cote先生は、米国ニューヨーク州立大学を定年退官されて早4年になるが、木材細胞壁に関する故原田先生との共同研究成果を中心に、木材の微細構造について講演される。多数の貴重なスライドを使って行われるので、それだけでも一見の価値がある。

佐伯先生は、「光顕1台あれば研究できるさ」といって、それを実行された人である。もちろん高度な機器を使って優れた成果も残されているわけだが、精神はハングリーである。組織構造研究の意義とあり方の話がおもしろい。

深沢先生には組織・構造と生理学、生化学的関連性についてお話しいただく予定である。これからの研究の発展について、ユニークな深沢論が展開される予定である。

「カエデ博士」が緒方先生の別称である。系統分類学と木材利用のための組織・構造とをこなしきて、さて、本来それぞれどうあるべきかという持論がおもしろい。

Kennedy先生の仮道管の分化・成熟に関する研究を知る人は多い。先生は樹木生理・育種・材質の研究者としてだけでなく、Western Forest Products Laboratoryの所長として、さらにIAWSの会長として研究行政にも貢献された方である。話題は針葉樹材の将来ありうべき材質に関するもので、先生の持論が展開される（企画責任者：岡野健）。

◎物性・加工分野

『高温・高圧水蒸気処理』

会場：第2会場 1102教室

司会：則元京（京大木研）

- (1) 「木材の透過性の向上」 金川靖（名大工）
- (2) 「木質材料の製造」 川井秀一（京大木研）